

きょう広島原爆70年 県内被爆者 本紙調査

体験継承に不安57%

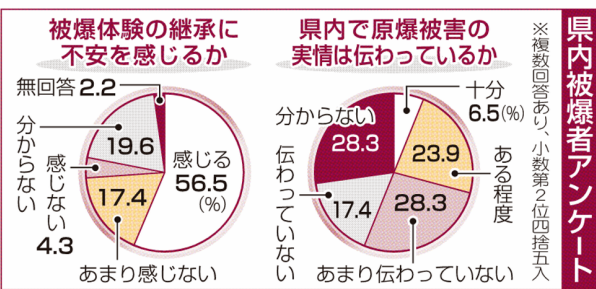
広島は6日、長崎は9日に「原爆の日」を迎える。1945年8月の原爆投下から70年がたち、広島、長崎で被爆した本県在住の被爆者の約57%が、被爆体験の継承に不安を感じていることが、5日までに下野新聞社のアンケートで分かった。



とちぎ 戦後70年

た。一方、約46%が原爆被害の実情が「県内で伝わっていない」とも回答。本県のように広島、長崎から遠く離れた土地だからこそ、より積極的に原爆の記憶を伝えていく必要性が浮き彫りとなった。2面に関連記事（島野剛、横松敏史）

被爆地派遣 広まり期待



アンケートは県原爆被害者協議会の協力を得て、初めて行った。7月に全会員137人へ郵送。46人から回答があり、7人は死去したと親族から連絡があった。回答者の平均年齢は79・5歳だった。

被爆の影響を尋ねると、被爆悪化に悩まされている。「体調悪化はしていないが、「悪化はしていないが、体調不良は続いている」と合わせ43・5%が不調を訴えた。「体調に変化はないが、不安を感じている」も47・8%あり、被害者がい

まだに心身に苦しみを抱えている実態が分かった。被爆体験の継承に不安を感じるかとの問いには、56・5%が「感じる」と回答。「高齢のため被爆体験をうまく話せない」（81歳女性）と訴える声があったほか、「幼かったので記憶がほとんどない」（74歳女性）など明かす人もおり、被爆者でも語ることもできない世代がいることも浮き彫りになった。

一方、県内で原爆の被害や被爆者の実情が十分伝わっているかを質問したところ、28・3%が「あまり伝わっていない」、17・4%が「伝わっていない」。「十分伝わっている」「ある程度伝わっている」は合わせ30・4%だった。

理由について「被爆県から遠く離れ、被爆者が少ないので、あまり関心がないように思う」（87歳男性）などとの指摘があった。

県内に「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ」をどう伝えるか。後世に伝える取り組みとして「学校の修学旅行で必ず広島、長崎の資料館等の見学を取り入れる」（69歳男性）「全部の中学生に広島、長崎の惨状を見せてほしい。派遣事業を広めてほしい」（82歳女性）などと、若い世代が現地で見聞する機会が増えることに期待を寄せた。